

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農業経営課長 栗原 一郎 電話番号 0852-22-5392

事務事業の名称	農業技術センター試験研究費	
目的	(1) 対象	農業者
	(2) 意図	新品種の開発や新技術の開発により、生産者の農業生産性向上を支援をする
事業概要	農業技術センターにおいて、農業の新技術開発、環境保全及び経営の合理化に必要な試験研究、調査、分析、種苗の保存配布などを行う。 （場所：出雲市芦渡町） 1 施設 本館棟、花振興棟、生物工学研究施設、付属舎 2 用地 施設用地 16.2ヘクタール うち試験ほ場 11.9ヘクタール（内訳：田4.2、畑2.9、樹園地等4.8）	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	終了した研究のうち目標が達成され普及がでる研究割合	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	年次終了課題のうち、目標達成及び普及ができると判定された研究数	目標値	100	100	100	
			実績値	100	100	100	100	100	%
			達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
			目標値	0.00	0.00	0.00	0.00		%
			実績値	0.00	0.00	0.00	0.00	%	
			達成率	0.00	0.00	0.00	0.00	%	

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	82,902	90,833
うち一般財源 (千円)	37,425	46,674

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

【終了課題】島根県農林水産技術会議により、平成26年度終了課題「ナシ早生優良品種の益前出荷技術の確立」「水稻新品種「つや姫」のブランド化に向けた栽培技術の確立」の二つが、「普及」の評価を受けた。  
 【重点研究プロジェクト】「将来の島根農業を支える商品づくりプロジェクト」は、ぶどう・メロンとも有望なオリジナル品種が開発されつつある。「有機農業推進のための技術開発プロジェクト」では、生産現場の実態調査と分析、水稻と畑作、野菜の技術確立を進めている。また、研究の中で得られた特許申請中の発明「水田用の除草作業機」については、特許庁の拒絶理由通知を受け、登録を目指して補正を行った。  
 【その他の研究課題】21課題全てが「継続」と判定され、平成27年度からの新規研究課題は5課題増となった。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

【終了課題】  
 ・「ナシ早生優良品種の益前集荷技術の確立」は、今後、県内ナシ産地の改植対策として有効な手法である。  
 ・「水稻新品種「つや姫」のブランド化に向けた栽培技術の確立」は、特に、県内平坦地の良質米対策として栽培マニュアルの導入が行われる。  
 【重点研究プロジェクト】  
 ・中間評価が終了したところであり、着実に成果をあげつつある。前半の成果について網羅的に点検し、今後の課題を明確にしたうえで、残りの期間で更なる成果をあげることを目指す。  
 【その他の研究課題】  
 ・研究成果については、成果発表会や機関誌、ホームページ等を活用し、関係機関や県民に情報提供を行っている。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 「普及」判定となった研究課題が現場で導入が進まない事例が散見される。
  - 付属舎、ハウス等の研究施設の多くが老朽化しており、計画的修繕と最新機器等の整備が必要である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 研究開発の途中段階に実需者（農家、市場、販売店、消費者等）の声が反映されていない。
  - 普及部やJA、生産組合への周知不足
  - 一般財源の不足
- ③原因を解消するための「課題」
- 研究開発の途中段階に実需者の意見等を反映させる。
  - 普及評価となった研究実績は、技術普及部や農業普及部との連携により地域の農業者に普及していく必要がある。
  - 研究終了課題を精査し、普及に至った研究と至らなかった研究の内容を比較検討し、現在進行中の研究がより現場に普及定着するよう取組みを進める必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・現在行っている研究課題の終了時において、「普及」または「目標達成」の評価を受け、現場に普及定着するよう引き続き各部門間の連携を密にし取り組む。  
 ・平成24年度から重点研究プロジェクトとして、有機農業、新品種の育成開発に取り組んでいる。本プロジェクトについても、効率的に研究を行える体制とし、早期の普及定着を目指す。  
 ・また、競争的資金などの外部資金を積極的に活用し、共同研究の取り組み強化を推進する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）